

## 『未来需要から科学技術を考える』試行研究

本試行研究は次の研究プロジェクトの一環として行われます。

課題名：『「需要」側からの科学技術政策の展開』

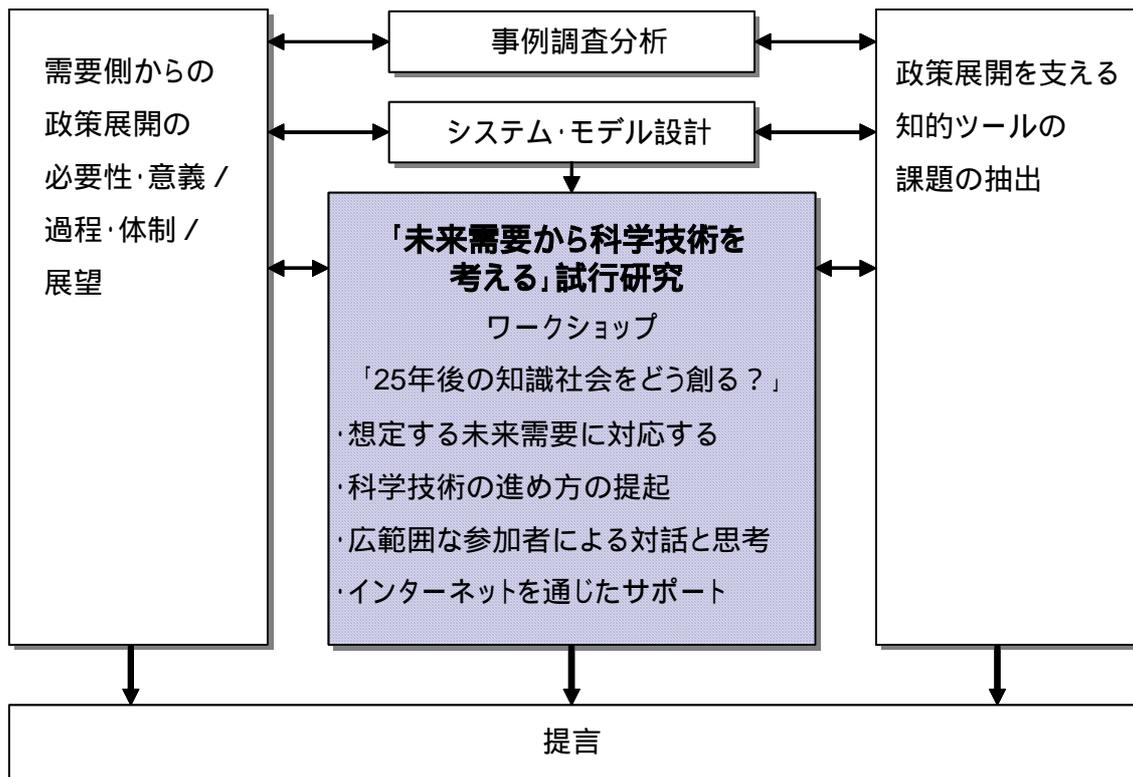
研究代表者：丹羽富士雄 政策研究大学院大学教授 実施機関：(財)政策科学研究所  
(平成 14 - 15 年度科学技術振興費・科学技術政策提言プログラム〔公募〕)

研究プロジェクト全体の問題意識と目的は次のようなものです。

科学技術が「供給」側からの視点に偏して推進されてきたことによる対応の遅れや誤り、効率性有効性などに問題が顕在化してきました。我が国でも先行国と同様に、科学技術の「需要」側からの本格的な政策展開のチャンネルを切り開くことが必要と考えます。

プロジェクトは、「需要」側からの科学技術政策を展開する必要性や意義、課題内容を明らかにし、ふさわしい政策展開制度等やそれが機能するための条件及び支援システム等を提起し、我が国が当面とるべき政策内容・手段等を提言することを目的としています。

研究内容の構成は下図に示すもので、本試行研究はアミのかかった部分です。



### 新しい政策過程の構想と試行研究の必要性

社会にとって「何が必要か」という視点から科学技術を効果的に振興、推進していくことが求められています。そのためには、多様な専門家や当事者、市民が参加し、必要な情報を得ながら対話と思考を重ねて目標を設定する社会的な過程が必要となります。

我が国では、こうした新しい政策過程は経験に乏しいので、試行と修正を繰り返しながら模索していくことになるでしょう。今回は重要な部分をワークショップで実際に試行して評価することを通じて、新しい政策過程の意義や課題、展望を検討することにします。